

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 7 月 14 日現在

機関番号：13302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00782

研究課題名（和文）人類学の外部から考える人類学の可変性と可能性：医学教育をめぐる協働の現場から

研究課題名（英文）The alterability and possibility of anthropology examined from outside anthropology: from the field of collaboration on medical education

研究代表者

伊藤 泰信 (Ito, Yasunobu)

北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・教授

研究者番号：40369864

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,000,000円

研究成果の概要（和文）：人類学者と医学教育者が分野横断的な協働を実践し、その協働実践をメタ考察することを通じて、社会の課題に呼応して人類学が近未来に向けてどのようにひらいていくべきかという問いを探求することが本研究の目的であった。医学教育の個別の特徴を調査し、医学生向け人類学教育プログラムの開発を推し進めつつ、医学教育をはじめとする人類学を取り巻く外部との関係において、社会における人類学という学の将来のあり方を検討した。成果として、学会発表や論文のみならず、医師・医学部生向けの人類学の教科書の出版、また、医学教育および人類学の両方への提言・報告レポート、さらに、本研究を発展させた複数の科研費研究のなどへと展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、人類学を取り巻く外部と人類学との関係をメタ考察する試みであったが、医学教育の関係者との協働を通じてそれを試みるものであった。これは、人類学的実践の境界を刺激的な方法で拡大するような協働の試み（Collaborative Anthropology）や、人類学者が関与的な役割を果たす「デザイン人類学」などとも通底する、意義ある試みの1つであったと言える。それは、医学教育のカリキュラムへの提言レポートなどにも現れている。また、医師・医学生のための人類学の教科書も作成・出版し、それを契機として、複数の大学の医学部との更なる協働や共同研究へと展開している。この点でも社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）： The aim of this study was to explore the question of how anthropology should open up in the near future in response to the challenges of society. We did this through meta-analyses of the collaborative practice of anthropologists and medical educators. In relation to the outside world surrounding anthropology, including medical education, the future of the discipline of anthropology in society was examined. To this aim, we investigated the characteristics of medical education at various universities and developed anthropology education programmes for medical students, including clinical case conferences. The results included not only conference presentations and papers, but also the publication of an anthropology textbook for doctors and medical students, the publication of reports with recommendations for both medical education and anthropology, and the development of several further Grant-in-Aid studies, including 22H00770 and 22K10467, which expanded on this research.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 医学教育 協働

## 1. 研究開始当初の背景

人類学は対象の変化・変貌によって時代時代でその姿を変えてきた。今後も、社会の変化に人類学がアクチュアルに対応していかざるをえないことに鑑み、本研究は、人類学を取り巻く外部と人類学との関係をメタレベルで考察しつつ、将来の人類学のあり方の可変性と可能性を示すことを目的とする。とりわけ本研究では医学教育との関係でその目的を追究する。2017年3月に改訂された「医学教育モデル・コア・カリキュラム」では、日本の医学教育史上初めて、人類学(および社会学)の内容が導入された。現在はさらに改訂され(2023年3月)当該カリキュラムに基づいて人類学をはじめとする社会科学を“実質的に”医学生たちに教えることが要請されている状況がある。本研究は、この喫緊の課題に対して、人類学者と医療者が分野横断的な協働を実践する。そして、その協働実践をメタ考察することを通じて、社会の課題に呼応して人類学が近未来に向けてどのようにひらいて(拓いて・開いて)いくべきかという問いを探求するというものである。

本研究の着想は、複数の研究プロジェクトと実践活動とが交わったことに発している。1つめは、医療者向けの人文社会科学教育のあり方を検討してきた星野や飯田ら、および医学教育の専門家 錦織らの取り組みである。その延長上に2015年から開始された(伊藤・浜田も含む)人類学者と医学教育の専門家によって続けられてきた医療者向けの人類学教育(症例検討ワークショップ)の教育実践がある。2つめは、日本文化人類学会(2015, 2016)での人類学教育関連の分科会(「人類学教育と応答性——人類学者の再生産モデルを超えて」)(分科会代表者 伊藤)をはじめとする一連の取り組みである。「人類学専門の研究者を輩出するモデル」とは異なる人類学教育、という、今日大多数の人類学者/大学教員が直面する人類学教育の課題を検討するものであった。3つめは、伊藤による実践的かつメタ人類学的な研究プロジェクトである。平成23年採択「ビジネスと人類学に関する実践的・メタ人類学的研究」および26年度採択「人類学の外部環境から考える人類学の可変性と可能性：ビジネスと工学系学問を視野に」(ともに研究代表者 伊藤)の主題を発展・拡張させ、新たな課題(医学教育)に接続させるかたちで本課題は立案された(Ito 2016, 2017, 伊藤 2013, 2015)。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の人類学の外部で生起している喫緊の課題(上述の改訂された「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に見られるような外部からの人類学への要請)を題材として、実践的かつメタ人類学的な検討を実施し、今後の人類学の可変性・可能性を検討することが目的であった。すなわち、医学教育にいかん人類学的な素養を導入するか、という課題をめぐる分野横断的な協働を実施しながら、それをメタレベルで考察するということである。「(医療者に学んでもらうべき)人類学という知のエッセンシャル・ミニマムとは何か」ひいては「人類学という知の、何が社会から要請され(う)るのか、それに応じて人類学をどう(再)定義していくのか」というリサーチクエスチョンを学術的に(歴史的な視野の中で、また、医療に限らない比較の視野の中で)追究する。それは理論的には(社会の諸課題との関係において)変わりゆく学についての学(人類学についての人類学) anthropology of the changing discipline (anthropology of anthropology) という性格を帯びるものであった(Spencer et. al. n.d.)。

医学教育における人類学の有用性や医療者向け人類学教育をめぐる先行研究は一定程度存在する(e.g. Miller 2003, Martinez 2015)。日本でも2000年代以降、波平らによって議論がなされている(e.g. 星野 2003, 松岡 2003, 道信 2003)。しかし本研究は、人類学を、分野横断的な実践の中で定義し直そうとする試みである点で、それらの医療人類学に限定された議論とは異なる。医療者への人類学的知見の有用性や人類学教育実践の報告のみにとどまらず、近未来の人類学のカタチの可変性と可能性を正面から扱い、積極的に提示していこうとするところに本研究の独自性がある。つまり、( ) 医療者向け教育を題材とし、かつ( ) 医療のみに留まらない射程(広がり)の中で人類学の定義を再検討する——直接的にはないにせよ、産業・ビジネスや科学技術をめぐる教育など、様々な社会課題との関係の比較を視野に入れる——という点で、従来の医学教育をめぐる人類学の議論とは一線を画すものであった。

## 3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、医学教育の個別の特徴を調査し、医学教育者・医師との協働実践(症例検討会をはじめとする医師・医学生向け人類学教育プログラムの開発)を推し進めつつ、医学教育との関係において、人類学という学の将来のあり方を検討する。さらに 人類学専攻者向けでない人類学教育のあり方を検討しながら上記リサーチクエスチョンを追究する、というものであった。

#### 4. 研究成果

人類学者と医学教育者が分野横断的な協働を実践し、その協働実践をメタ考察することを通じて、社会の課題に呼応して人類学が近未来に向けてどのようにひらいていくべきかという問いを探究するという本研究の目的に沿いながら、医学教育の個別の特徴を調査し、医学生向け人類学教育プログラムの開発を推し進めつつ、医学教育をはじめとする人類学を取り巻く外部との関係において、社会における人類学という学の将来のあり方を検討した。成果として、学会発表や論文のみならず、医師・医学部生向けの人類学の教科書の出版、また、医学教育および人類学の両方への提言・報告レポート、さらに、本研究を発展させた複数の科研費研究のなどへと展開した。

『コンタクトゾーン』11号には特集が組まれ(浜田明範編,2019,「特集論文 医学教育と人類学の協働のかたち」)、医師・医学生向けの教科書(飯田淳子・錦織宏編,2021,『医師・医学生のための人類学・社会学 臨床症例/事例で学ぶ』ナカニシヤ出版)も出版された。提言・報告レポートとして、医学教育(者)に向けて、飯田淳子・木村周平・伊藤泰信・倉田誠・浜田明範・星野晋・春田淳志・錦織宏「医学教育に社会科学を生かすために 次回コアカリ改訂に向けての提案(掲示板:意見)」、『医学教育』誌(52(4):342-344,2021)、人類学(者)に向けては、木村周平・飯田淳子・伊藤泰信・倉田誠・錦織宏・浜田明範・春田淳志・星野晋「文化人類学にとっての医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の意義」、『文化人類学』誌(86(3):511-514,2021)を、それぞれ提示している。

本研究の検討から生じた知見の1つとして、相反する教育のモード(人類学教育の困難さ)という問題がある。医学教育に文化人類学を導入するというのは言うほど容易くはない。というのも、相反するかのような教育という実際的な問題があるからである。金沢大・金沢医大・藤田医大・和歌山県立医大などで教育実践をする中で、医学教育と人類学教育とでは異なるベクトルがあることが分かってきた(これは、医学のみならず、工学などの実学やビジネス実務でも看取されることである)。人類学と教育の親和性を指摘するT.インゴルド(2018)は、「知識」と「知恵」を対比させている。もともと教育とはラテン語の ex(出る)+ducere(導く)という合成語に由来する。教育とは「外に導く」ことであり、知を揺るがし不安定化させることである(Ingold 2014)。しかし、医学教育の文脈では、既に承認された知識を初学者に植え付けることに焦点が置かれる。B.グッド(2001:ch3)が描いているように(それは日本の医学部でも同様であるが)、医学生は「医師化」とでも言える教育を、学部(卒前)教育で受けて、医師に「なる」(医師として対象を捉える見方を習得する)。そして、実習などの教育を通じ、臨床において瞬時の判断で「的確」な「答え」や「結果」を出すことを学ぶ。実務家として、瞬時の問題解決をして「答え」や「結果」を出すという、ある種の自動化が、医学部において涵養される知識である。そうした医師の教育に、人類学の知恵(答えの保留を迫る、不安定化させる)をどのように接合させるのか。教育実践を通じてこうした新たな問いが生まれたことは成果の1つと言える。

また、医師らとの協働体制構築の必要性ということがある。人類学の思い(思い込み)で共働はうまくいかない。人類学の外部(医療(者))との関係性の中で人類学を捉え直してみてもはじめて、人類学者のドクサから脱却しうるはずであるというのは本研究のそもそもの問題意識であったが、医学教育者(医師)と人類学者との、対等にタッグを組むかたちで、互いの学び合い(Ingold 2018)を通じた体制の構築の必要性が看取されたことがもう1つの知見である。人文社会科学の素養を医学教育に導入する試みは必ずしもうまくいっておらず(Benbassat 2003, Isaac 2009, Litva 2008)、医療者と人文社会科学者との密な連携が不足していること(Satterfield 2010)はすでに指摘されてきたことではあるが、医学教育者(医師)と人類学者とを繋ぐ「越境的人材(パウンダリースパナー)」が必要との認識に至っており、それが複数の更なる科研費研究へと展開した(22H00770:研究代表者 伊藤泰信「医学教育者と“共働”するサービスデザインの人類学:総合診療専門医教育の事例から」、22K10467:研究代表者 谷口晋一「文化人類学の知見を活かした総合診療専門医の教育方法の構築」)ことも本研究の成果と言えよう。

本研究課題のような、医学教育関係者との協働実践を進めつつ、それをメタ分析する試みは、人類学的実践の境界を刺激的な方法で拡大するような「協働の人類学」(Collaborative Anthropology)や、人類学者が関与的な役割を果たす「デザイン人類学」(Design Anthropology)などとも通底する、意義ある試みの1つであったと言える。それは、医学教育のカリキュラムへの提言レポートなどにも現れている。また、医師・医学生のための人類学の教科書も作成・出版し、それを契機として、複数の大学の医学部との更なる協働へと展開している。この点においても社会的意義は大きいと言えよう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 24件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 飯田 淳子、木村 周平、伊藤 泰信、倉田 誠、浜田 明範、星野 晋、春田 淳志、錦織 宏	4. 巻 52
2. 論文標題 医学教育に社会科学を活かすために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 342～344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11307/mededjapan.52.4_342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 医療者向け人類学教育連携委員会、木村 周平、飯田 淳子、伊藤 泰信、倉田 誠、錦織 宏、浜田 明範、春田 淳志、星野 晋	4. 巻 86
2. 論文標題 文化人類学にとっての医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂の意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 511～514
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.3_511	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Inoue Kazuoki, Son Daisuke, Iida Junko, Taniguchi Shin ichi	4. 巻 23
2. 論文標題 Fieldwork as a bridge between lectures and clinical clerkship: Medical students become the observer as participant	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6. 最初と最後の頁 65～66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/jgf2.468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浜田 明範	4. 巻 86
2. 論文標題 ウィズコロナの始まりと終わり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 457～476
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.3_457	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Otani Kagari, Ito Yasunobu	4. 巻 266
2. 論文標題 "As Normal" Co-created by Visiting Nurses and Patients: Ethnographic Study on Visiting Nurse Station in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Leitner, C., Ganz, W., Satterfield, D., Bassano, C. (eds) Advances in the Human Side of Service Engineering. AHFE 2021. Lecture Notes in Networks and Systems	6. 最初と最後の頁 503 ~ 509
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-80840-2_58	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyachi Junichiro, Iida Junko, Shimazono Yosuke, Nishigori Hiroshi	4. 巻 21
2. 論文標題 A collaborative clinical case conference model for teaching social and behavioral science in medicine: an action research study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-021-03009-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morishita Mariko, Iida Junko, Nishigori Hiroshi	4. 巻 28
2. 論文標題 Reconstructing the concept of empathy: an analysis of Japanese doctors' narratives of their experiences with illness	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Advances in Health Sciences Education	6. 最初と最後の頁 87 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10459-022-10143-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Oikawa Sayaka, Iida Junko, Ito Yasunobu, Nishigori Hiroshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Cultivating cultural awareness among medical educators by integrating cultural anthropology in faculty development: an action research study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-022-03260-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Hiromi、Ito Yasunobu	4. 巻 62
2. 論文標題 Changes in the Relationship between Medical Professionals Mediated by an Information Tool: An Ethnography of Team Medicine in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Christine Leitner, Walter Ganz, Clara Bassano and Debra Satterfield (eds) The Human Side of Service Engineering. AHFE (2022) International Conference	6. 最初と最後の頁 126 ~ 133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.54941/ahfe1002550	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi Yaeko、Ito Yasunobu	4. 巻 62
2. 論文標題 The Invisible Work and its Value of Outpatient Nurses: A Case Study of an Internal Medicine Clinic in Fukuoka, Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Christine Leitner, Walter Ganz, Clara Bassano and Debra Satterfield (eds) The Human Side of Service Engineering. AHFE (2022) International Conference	6. 最初と最後の頁 134 ~ 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.54941/ahfe1002551	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otani Kagari、Ito Yasunobu	4. 巻 62
2. 論文標題 Acquisition and sharing of knowledge and skills of visiting nurses in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Christine Leitner, Walter Ganz, Clara Bassano and Debra Satterfield (eds) The Human Side of Service Engineering. AHFE (2022) International Conference	6. 最初と最後の頁 160 ~ 166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.54941/ahfe1002554	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村周平・春田淳志・飯田淳子・小曾根早知子・金子惇・後藤亮平・照山絢子・濱雄亮・堀口佐知子・宮地純一郎	4. 巻 85(3)
2. 論文標題 COVID-19に向き合う医療者の経験のドキュメンテーション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 566-569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子・庵谷千恵子・桑原篤恵	4. 巻 51(6)
2. 論文標題 他者理解の視点と方法を育むエスノグラフィ教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 678-684
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子	4. 巻 51(5)
2. 論文標題 パンデミック下の医療福祉系大学における人類学の遠隔教育の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 581-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.5_581	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 (書評)『病縁の映像地域研究 タイ北部のHIV 陽性者をめぐる共振のドキュメンタリー』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 116-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lawrence Sherman, and Hiroshi Nishigori	4. 巻 9
2. 論文標題 Current State and Future Opportunities for Continuing Medical Education in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of European CME	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21614083.2020.1729304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Dujeepa D Samarasekera, Shuh Shing Lee, Ardi Findyartini, Rita Mustika, Hiroshi Nishigori, Shunsuke Kimura, Young-Mee Lee	4. 巻 32
2. 論文標題 Faculty development in medical education: an environmental scan in countries within the Asia pacific region	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Korean Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 119-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3946/kjme.2020.160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mariko Morishita, Junko Iida, Hiroshi Nishigori	4. 巻 16
2. 論文標題 Doctors' experience of becoming patients and its influence on their medical practice: A literature review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Explore	6. 最初と最後の頁 145-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.explore.2019.10.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikuo Shimizu, Hiroshi Nishigori	4. 巻 42
2. 論文標題 Failure or adaptation? - Redefining PBL from the perspective of the Safety II paradigm	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medical Teacher	6. 最初と最後の頁 1076-1077
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0142159X.2020.1729971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Diantha Soemantri, Indika Karunathilake, Jen-Hung Yang, Shan-Chwen Chang, Chyi-Her Lin, Vishna D Nadarajah, Hiroshi Nishigori, Dujeepa D Samarasekera, Shuh Shing Lee, Lilybeth R Tanchoco, Gominda Ponnampereuma	4. 巻 32
2. 論文標題 Admission policies and methods at crossroads: a review of medical school admission policies and methods in seven Asian countries	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Korean Journal of Medical Education	6. 最初と最後の頁 243-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3946/kjme.2020.169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 Yuka Urushibara-Miyachi, Makoto Kikukawa, Masatomi Ikusaka, Junji Otaki, Hiroshi Nishigori	4. 巻 -
2. 論文標題 Differential Diagnoses That Final-Year Medical Students Need to Consider: A Modified Delphi Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21203/rs.3.rs-127514/v1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Carmen Wong, Walter van den Broek, Gillian Doody, Martin Fischer, Michelle Leech, Fabrizio De Ponti, Alexander Gerbes, Hiroshi Nishigori, Young Mee Lee, Maarten Frens, Hideki Kasuya, Franco Bazzoli, Reinhard Hickel, Hong Sik Lee, J.P.T.M van Leeuwen, Christina Mitchell, Kenji Kadomatsu, John Atherton, Francis Chan	4. 巻 10
2. 論文標題 Continuing medical education during pandemic waves of COVID-19: Consensus from medical faculties in Asia, Australia and Europe	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MedEdPublish	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15694/mep.2021.000064.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 近藤 猛・高見 秀樹・錦織 宏	4. 巻 51
2. 論文標題 オンライン臨床実習にも転用可能なオンラインPBLの実践報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 276-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 錦織 宏・西城 卓也	4. 巻 51
2. 論文標題 オンライン教育の展開における学修弱者への配慮	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 309-311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_309	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 磯部 真倫・榎本 隆之・錦織 宏	4. 巻 51
2. 論文標題 Zoomによる教育事例検討会 オンラインFaculty Development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 338-340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11307/mededjapan.51.3_338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜田 明範	4. 巻 48(12)
2. 論文標題 感染者数とは何か COVID-19の実行と患者たちの生成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 118-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜田 明範	4. 巻 48(16)
2. 論文標題 医薬化する希望 不在のワクチンが見えづらくするものについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平岡 一志・中野 徹・大島 埴生・青木 卓也・星野 晋	4. 巻 30
2. 論文標題 理学療法士に対する物語医療についての卒後教育の試みとその効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理学療法の臨床と研究	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜田明範	4. 巻 11
2. 論文標題 「序 なぜいま文化人類学が医学教育に関わるべきなのか」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『コンタクトゾーン』	6. 最初と最後の頁 312-319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 星野晋	4. 巻 11
2. 論文標題 「医療現場のニーズに応える文化人類学教育の設計に向けて 日本の医学教育における文化人類学導入の経緯と今後」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『コンタクトゾーン』	6. 最初と最後の頁 320-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜田明範	4. 巻 11
2. 論文標題 「医学教育とともにある人類学に向けて スコットとインゴルドの助けを借りて」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『コンタクトゾーン』	6. 最初と最後の頁 375-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子・錦織宏	4. 巻 11
2. 論文標題 「臨床現場の社会的文化的課題にともに向き合う 医療者・人類学者共同の症例検討会」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『コンタクトゾーン』	6. 最初と最後の頁 392-425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mariko MORISHITA, Junko IIDA, Hiroshi NISHIGORI	4. 巻 12Nov2019
2. 論文標題 Doctors' experience of becoming patients and its influence on their medical practice: A literature review	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Explore: The Journal of Science & Healing	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.explore.2019.10.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 井上和興、伊藤泰信
2. 発表標題 「総合診療専門医を対象とした文化人類学的素養の教育方略の検討」
3. 学会等名 第7回 まるはち人類学研究会(中部人類学談話会第265回例会(日本文化人類学会中部地区研究懇談会)・第168回北陸人類学研究会例会(日本文化人類学会 北陸地区研究懇談会))
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yaeko Kawaguchi、Yasunobu Ito
2. 発表標題 How Do Ambulatory Nurses Perceive Their Work Value?: An ethnographic study of a Japanese Small Clinic
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kagari Otani、Yasunobu Ito
2. 発表標題 How to Transfer Knowledge on the "Art of Care" Closely Connected With a Patient's Living Space: A Case Study of a Visiting Nurse Station in Nagoya, Japan
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「文化人類学の視座から」
3. 学会等名 第81回日本癌学会学術総会 公開シンポジウム「患者と医療者が協創するがん医療を目指して」(主催 日本学術会議 臨床医学委員会腫瘍分科会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤泰信、角南なおみ、谷口晋一、小林知貴、濱雄亮、石田和史
2. 発表標題 「糖尿病患者が認知症を発症したとき、医師はなにを想うのか?」
3. 学会等名 鳥取大学医学部地域医療学講座主催シンポジウム「地域高齢糖尿病患者の「病い」の認知と療養行動障壁の関連について」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiromi Yamaguchi、Yasunobu Ito
2. 発表標題 Patient Education Created by Healthcare Professionals Together with Patients: An Ethnographic Case Study of a Medium-Sized Hospital in Japan
3. 学会等名 The 82nd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kagari Otani、Yasunobu Ito
2. 発表標題 How Visiting Nurses Acquire Nursing Knowledge and Skills: A Case Study of a Japanese Visiting Nurse Station
3. 学会等名 The 82nd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yaeko Kawaguchi, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Practical Knowledge of Generalist Nurses: A Case Study of an Outpatient Clinic in Fukuoka, Japan
3. 学会等名 The 82nd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯田淳子、宮地純一郎、井上和興、森下真理子、奥 知久、春田淳志
2. 発表標題 「プライマリ・ケア医と人類学者のコラボによって生まれた/るもの 課題と可能性」
3. 学会等名 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田淳子、錦織 宏、木村周平、伊藤泰信、倉田 誠、浜田明範、星野 晋、森下真理子
2. 発表標題 「医療者・医療系学生向け社会科学教材(事例集)の開発と活用」
3. 学会等名 第80回医学教育セミナーとワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「非人類学者のためのエスノグラフィのススメ」
3. 学会等名 HCGシンポジウム2021(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田淳子
2. 発表標題 「他者理解の視点と方法を育むエスノグラフィ教育」
3. 学会等名 第13回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野晋
2. 発表標題 「「ふつつ」であること 地域社会が主体的に育む地域医療マインド」
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田淳子・錦織宏・宮地純一郎・伊藤泰信・浜田明範・井上和興・倉田誠・星野晋
2. 発表標題 「文化人類学的視点からの症例検討会」(コロナの影響で抄録のみ)
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroshi Nishigori
2. 発表標題 How students and faculties work together: Lessons from Nagoya university
3. 学会等名 Medical Education in Pandemic (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 錦織宏・黒田啓介・近藤猛・木村宏
2. 発表標題 「新型コロナウイルス感染症拡大状況下で医学生は何をどのように学ぶべきなのか？名古屋大学医学部医学科の経験」
3. 学会等名 4月からの大学等遠隔授業に関する取り組み状況共有サイバーシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 錦織宏
2. 発表標題 オンライン臨床実習を実施する際のポイント
3. 学会等名 「医学教育サイバーシンポジウム「COVID-19時代」の医学教育」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 錦織宏
2. 発表標題 「新自由主義時代の医師の労働倫理」
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯部真倫・錦織宏・榎本隆之
2. 発表標題 産婦人科領域における臨床研修医教育、専攻医教育、サブスペシャリティ教育における現状と問題点
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 星野晋
2. 発表標題 「医師養成における立ち位置を探る 医学教育に対する文化人類学の関わり方をめぐって」
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会（社会学教育委員会企画テーマセッション「社会学は医学専門教育カリキュラム改革にいかにかコミットできるのか」）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星野晋
2. 発表標題 「地域ぐるみで医師を育てる 山口県における地域基盤型医療人材育成の事例から」
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「文化／医療人類学の研究方法 エスノグラフィの実際とSCAT」
3. 学会等名 医学/医療者教育研究&臨床研究ワークショップ 質的研究編
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kagari OTANI, Yasunobu ITO
2. 発表標題 Visiting Nurse and Patient Together Create “As Normal” : A Case Study of Visiting Nurse Station in Nagoya, Japan (Healing and Curing in Diverse Perspective)
3. 学会等名 The 81st Annual Meeting, SfAA (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 IIDA, Junko
2. 発表標題 Exploring Social and Cultural Problems in Clinical Situations Together: Collaborative Clinical Case Conferences between Health Professionals and Anthropologists
3. 学会等名 WONCA Asian Pacific Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田淳子
2. 発表標題 「臨床との関連づけに重きをおいた文化人類学教育」
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「文化人類学 / 医療人類学からみたがん治療」
3. 学会等名 日本学術会議 臨床医学委員会 腫瘍分科会 (第24期 第2回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NISHIGORI, Hiroshi
2. 発表標題 Lessons learned: Collaborating with cultural anthropologists
3. 学会等名 AMEE (Association for Medical Education in Europe) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「文化人類学の視角をイノベーションに活かす エスノグラフィの可能性」
3. 学会等名 SPI Japan 2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「文化人類学から見たがん医療」（日本学術会議との共催シンポジウム「行動経済学・文化人類学・医療経済学から見たがん治療」
3. 学会等名 第60回日本肺癌学会学術集会（共催：日本学術会議臨床医学委員会腫瘍分科会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKEDA, Ayako, ITO, Yasunobu
2. 発表標題 Anxiety and learning among nursing college students in overseas training in Vietnam based on pre- and post-training interviews and observation by a teacher
3. 学会等名 22nd Global Nursing Education, Healthcare and Medical Expo (web conference) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「趣旨説明 医療者向け教育の現場から人類学の拡張可能性を考える」（分科会代表者：伊藤泰信「医療者向け教育の現場から人類学の拡張可能性を考える」）
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯田淳子
2. 発表標題 「症例検討会を通じた医療者向け人類学教育 臨床との関連づけに重きをおいた協働実践の試み」(分科会代表者:伊藤泰信「医療者向け教育の現場から人類学の拡張可能性を考える」)
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星野晋
2. 発表標題 「変容する日本の医学教育における人類学教育の方向性」(分科会代表者:伊藤泰信「医療者向け教育の現場から人類学の拡張可能性を考える」)
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯田淳子
2. 発表標題 「人類学的視点からみた「患者中心の医療の方法」の可能性と課題」
3. 学会等名 第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NISHIGORI, Hiroshi
2. 発表標題 Assessing Social and Behavioral Sciences in Japan
3. 学会等名 AMEE (Association for Medical Education in Europe) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星野晋
2. 発表標題 「医学教育における社会科学の位置づけ」
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ITO, Yasunobu
2. 発表標題 How ethnography infiltrated the Japanese business scene: A case study
3. 学会等名 PICMET '18 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 「概説 文化人類学とは、医療人類学とは」
3. 学会等名 MEDC 第70回医学教育セミナーとワークショップ WS1「地域医療教育と文化人類学」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田佳奈恵・伊藤泰信
2. 発表標題 「医学部の文化人類学教育における映像メディアの活用 その可能性をめぐる予備的検討」
3. 学会等名 第5回まるはち人類学研究会（共催 北陸人類学研究会例会、中部人類学談話会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 渥美一弥、浮ヶ谷幸代、佐藤正章、星野 晋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同医書出版社	5. 総ページ数 288
3. 書名 医師と人類学者との対話	

1. 著者名 飯田淳子・錦織宏編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 医師・医学生のための人類学・社会学 臨床症例/事例で学ぶ	

1. 著者名 Junko Iida, Hiroshi Nishigori	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 21
3. 書名 Managing Uncertainty: Collaborative Clinical Case Conferences for Physicians and Anthropologists in Japan. Martinez I., Wiedman D.W. eds. Anthropology in Medical Education: Sustaining Engagement and Impact	

1. 著者名 錦織 宏・三好 沙耶佳編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 390
3. 書名 指導医のための医学教育学 実践と科学の往復	

1. 著者名 浜田明範・西真如・近藤祉秋・吉田真理子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 384
3. 書名 新型コロナウイルス感染症と人類学	

1. 著者名 伊藤泰信	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東方出版	5. 総ページ数 26
3. 書名 「文化人類学の視角と方法論を実務に活かす ビジネスエスノグラフィの可能性と課題」八巻恵子編 『企業実践のエスノグラフィ』	

1. 著者名 飯田淳子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 「ロバート・F. マーフィー『ボディ・サイレント 病いと障害の人類学』」澤野美智子編『医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう』	

1. 著者名 浜田明範	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 「ヴィクター・W. タナー『儀礼の過程』」澤野美智子編『医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう』	

1. 著者名 浜田明範	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 「アネマリー・モル『多としての身体』」澤野美智子編『医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう』	

1. 著者名 浜田明範	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 「奥野克己『帝国医療と人類学』」澤野美智子編『医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう』	

1. 著者名 セシル・ヘルマン著。飯田淳子訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 35
3. 書名 「第2章 身体 解剖学と生理学の文化的説明」辻内琢也（監訳責任）、牛山美穂・鈴木勝己・濱雄亮（監訳）『ヘルマン医療人類学 文化・健康・病い』	

1. 著者名 浜田明範	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 6
3. 書名 「アネマリー・モル」岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学 人物・古典・名著からの誘い』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	星野 晋 (Hoshino Shin) (00259649)	山口大学・国際総合科学部・准教授  (15501)	
研究分担者	飯田 淳子 (Iida Junko) (00368739)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授  (35309)	
研究分担者	錦織 宏 (Nishigori Hiroshi) (10463837)	名古屋大学・医学系研究科・教授  (13901)	
研究分担者	浜田 明範 (Hamada Akinori) (30707253)	関西大学・社会学部・准教授  (34416)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関